

防御型経営戦略がもたらす労働災害の改善

野田蒼斗 (のだ あおと)

東京理科大学経営学部

1. 研究内容のご紹介

本研究は、「狭く安定した市場領域で活動する防御型戦略の企業は、積極的に社会的責任を担うのか」という問いを持ち、化学関連産業を対象とした分析により、経営戦略の変化が労働災害数に与える影響を実証することを目的としています。

Miles et al. (1978) が提唱した、新製品開発による市場創造を目指す探索型経営戦略と、コスト削減による活動の継続を目指す防御型戦略の違いに着目し、これらの戦略が企業の労働災害数に及ぼす影響を検証します。先行研究では、どちらの戦略がより積極的に社会的責任を果たすかについて、一貫した結果が得られていません (Habib et al., 2024)。

この結果が揺れている原因として、以下の二点を考察しました。第一に、企業の戦略は変化するにもかかわらず、単年度データで分析が行われていること。第二に、同じ防御型戦略に分類された企業同士でも、防御型戦略度合いに差があること。そこで、本研究は20年のパネルデータを用いて企業の戦略の変化に注目します。多くの先行研究の仮説が異なる戦略の企業を比べているのに対し、本研究は企業の戦略の変化に着目した仮説を立てています。さらに戦略変化だけでなく、戦略の変化の大きさも注目しています。

さらに、社会的責任の曖昧さも結果の不一致の一因と考え、本研究は化学産業における重要な社会的責任として、従業員の安全性を反映する労働災害数に注目しました。

2. 授賞に対してのコメント

この度、優秀萌芽賞研究賞の受賞を大変光栄に感じています。指導教員でもある大江教授をはじめ、共に研究に携わる仲間たちから多くの貴重な助言をいただきました。受賞者として表彰されたのは私と大江教授のみですが、多くの方々のご支援なくして

は、この成果は得られませんでした。心より感謝申し上げます。

3. 現在の研究状況

大学4年生として、単位取得と就職活動を終えた現在、研究に多くの時間を割くことができています。現在、週2回ある研究進捗報告会をペースメーカーに、研究を進めています。さまざまなディスカッションを通じて課題が増え、日々研究の難しさを実感している状況です。

現在、3つの大きな課題を抱えております。1つ目は化学産業のマーケティング力をいかにして測るかです。戦略分類の先行研究では広告費を用いているのですが、化学産業は主にB to Bであり、広告費でマーケティング力が測れるのかという疑問があります。販促費とうまく組み合わせる化学産業におけるマーケティング力を測る予定です。2つ目は合併した企業の対処法です。戦略の分類の為に企業の財務情報を用いているのですが、20年間で多くの企業が合併をしています。合併により生じる財務データの歪みをどのように処理するのが課題となっております。3つ目は、戦略変化の程度をどのように算出するかです。戦略はBentley et al. (2013) に従い分類指標を作成しますが、どのくらい戦略が変化したのかという、変化の程度をどのように計測するかについてはさまざまな方法が考えられ、頭を悩ませています。現状抱えている大きな課題はこの3つであり、その対処方法を考える日々です。

4. 苦勞した点

最も苦勞したのは、本研究テーマの確立過程です。昨年(2023年)の9月上旬からテーマ決めを開始しましたが、9月から11月は就職活動が最も集中する時期と重なり、両立に大きな困難を感じました。11月後半に最終的なテーマを決定するまでの

約3ヶ月間、毎日のように就職活動に取り組みながら、わずかな空き時間を最大限に活用して先行研究の精読や研究計画書の作成に励みました。この期間中、時には徹夜で論文を読み、翌日のインターン選考に臨むといった厳しいスケジュールをこなすこともありました。そんな中で研究計画書を5回ほど書き直すこともありました。当時は大変でしたが、今振り返ると自身の成長を実感できる貴重な経験となりました。この過程を通じて、限られた時間の中で効率的に作業を進める能力や、ゴールをイメージしてそれに向かってタスクを切る方法など、複数のタスクを同時に管理する力が磨かれたと感じています。就職活動と研究の両立を通じて自己管理能力が向上して、研究と就職活動の両方について成果を出せた原動力になったと感じます。

5. 研究室の様子

大江研究室では院生、学部3,4年生で一人一つの研究テーマを掲げ、論文作成に取り組んでいます。学生の研究室として、経営情報学会の年次大会でも利用しているoVice社のバーチャル空間を利用したオンライン研究室が提供されています。そこでは学年を跨いで研究のアドバイスをしあったり、雑談をしたりと、学生を中心としたコミュニティができています。さらに学部3,4年生は隔週行われるゼミ活動に加えて、大学院生と大江教授が行っている論文

作成を目的とした大学院の研究指導のゼミナールに任意で参加することができます。学内だけでなく、他大学との合同ゼミの実施もあり、そこでの研究発表をみんなで目指しています。大江研究室は、さまざまな機会を、学生が自分で選んで頑張れる環境がある研究室であると感じています。

参考文献

- Bentley, K. A., Omer, T. C., and Sharp, N. Y., "Business Strategy, Financial Reporting Irregularities, and Audit Effort," *Contemporary Accounting Research*, Vol. 30, No. 2, 2013, pp. 780–817.
- Habib, A., Ranasinghe, D., and Perera, A., "Business Strategy and Strategic Deviation in Accounting, Finance, and Corporate Governance: A Review of Empirical Literature," *Accounting & Finance*, Vol. 64, No. 1, 2024, pp. 129–159.
- Miles, R. E., Snow, C. C., Meyer, A. D., and Coleman Jr, H. J., "Organizational Strategy, Structure, and Process," *The Academy of Management Review*, Vol. 3, No. 3, 1978, pp. 546–562.

略歴

野田蒼斗 (のだ あおと)

令和3年 城北埼玉高等学校 卒業。

令和3年 東京理科大学経営学部経営学科 入学。4年。